

## 群馬大学医学部第1外科学教室

*First Department of Surgery,  
Gunma University School of Medicine*

上越国境に源を発した利根川が、赤城山、榛名山の広大な裡野をけずり、堂々たる流れをみせはじめの地。前橋は「水と緑と詩の街」と呼ばれ、詩人・萩原朔太郎をはじめとして多くの文学者に愛された文学的情緒にあふれた地でもある。

この前橋に群馬大学医学部の前身、前橋医専が設置されたのは昭和18年4月のことで、その後昭和24年6月1日、東京大学医学部青山外科助教授・石原恵三先生を初代教授にむかえて、群馬大学医学部第1外科学教室は開講した。

主に消化器外科を中心として脳神経外科、胸部外科、小児外科を含めた一般外科学をめざす教室として発展し、昭和61年7月に第3代教授として長町幸雄先生が教室を主宰され現在にいたっている。

この間、290名の外科医を輩出、現在、教室員は11名の大学院生を含め、100名をこえている。

**診療** 消化器外科を中心とし、呼吸器、内分泌外科ことに甲状腺、胸腺外科を含めた幅広い診療を行っている。内視鏡、血管造影の手技を応用した内視鏡下の治療、IVRなども含め、外科手術のみでなく診断から治療、術後 QOL までを包括した総合的一貫診療を実践している。

**研究** Oncology の分野では、主に消化器癌を対象に、分子生物学的手法を用いた癌遺伝子、抑制遺伝子、細胞増殖等にかかわる分子生物学的研究から、癌の浸潤転移、悪性度、糖鎖を介した細胞間情報伝達、腫瘍関連抗原など細胞生物学的研究、そしてこれらを応用した臨床研究と幅広い分野で研究が行われている。また、生理学、生化学の分野では消化性潰瘍の病態、消化管運動、ホルモン動態、細胞膜の代謝、糖転移酵素等の研究も教室の伝統的な研究テーマとして行われている。最近では移植に関する基礎的、臨床的研究も盛んである。

**教育** 教室員には外科学会、消化器病学会、消化器外科学会などの認定医、専門医の修得を義務づけている。大学院生を積極的に採用し、教室のテーマをふまえた研究に取り組ませており、また、教室員3～4名を毎年、米国 NIH (National Institute of Health)、Pittsburgh 大、カナダ McGill 大などに派遣し、海外との学術交流を推進している。

(浅尾高行)